

# 北の子

浜岡北小学校だより 令和2年度2月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

＜重点目標＞

進んで関わり 認め合う子

## 令和2年度の成果と課題、そして令和3年度に向けて

年度末を迎え学校では、本年度の成果・課題をもとに次年度の教育計画について検討しているところです。児童・保護者を対象にした学校評価の結果については1月末に学校だよりでお伝えしましたが、子どもたちの姿や記録からも成果・課題が見えてきます。以下は、卒業文集のために書いた鳥羽優那さんの文章です。

修学旅行。笑顔の会。どちらも6年1組全員が、団結して創り上げました。

コロナウイルス。その驚異によって運動会には一度中止に。修学旅行も行けるかどうか怪しくなりました。そんな中、「学校のみんなをがっかりさせたくない。」「県内なら大丈夫かも。」「これなら、感染対策はバッチリだよ！」など、あきらめずに希望をもち続けました。運動会は名を改め、『笑顔の会』として復活させることができました。修学旅行も県内と山梨県に行くことができました。また、例年とは違う場所でも、みんなが笑顔で過ごすことができました。修学旅行や笑顔の会のおかげで、自分で自分のことをやり遂げる力が成長したと感じます。

浜岡北小学校で過ごした6年間で、自分で考える大切さを学びました。これは、中学、高校にも生かせると思います。この先、どんなにつらいことや悲しいことがあっても、北小での6年間を思い出し、頑張ろうと思います。また、その経験を糧にして自分の人生を切り開いていきたいです。



さらに、どんなに困難でくじけそうなときでも自分を信じ、未来に突き進んでいきたいです。

本校では、17年間続いた学校教育目標「『たくましさ』と『思いやり』いっぱいの子」を、本年度「『たくましさ』と『思いやり』で未来をつくる子」に変更しました。学校だより4月号では、その理由を「教師や保護者が将来どれほど厳しい社会になるのかということをイメージしてそういったことに立ち向かいながら自分たちの力で明るい未来を創ろうとする人を育成するという強い意志をもつことや、子どもたちにも未来に目を向けさせて目標をもたせることが大切であると考えたからです。」と説明しましたが、優那さんの文章から、困難を克服する過程を通して「未来をつくる子」に向かって成長していることがよくわかります。修学旅行と笑顔の会を通しての成長については、ほとんどの人が記述していたので、6年生全体の成長ともいえます。また、第3ステージから運営委員会が中心となり全校で取り組んだあいさつ運動も大いに盛り上がりました。これらのことから、「集団での主体性」の伸張が本年度の大きな成果といえます。一方で、学校評価の「自分の考えを進んで話すことができる」という項目の達成率が約72%であったことに象徴されるように、「個人レベルでの主体性」は、課題として残っています。

そこで、令和3年度は、「集団でも個人でも自ら考え行動できる子」を目指した目標を掲げ具体的な取組をしていきたいと考えています。

## 「ゲーム障害・ネット依存防止」講演会の成果は

12月3日に行われた「ゲーム障害・ネット依存防止」の講演会は、大好評でした。しかし学んだことは、その後の実生活に生かされて大きな意味があります。そこで、講演会当日、5・6年生は「ゲーム障害・ネット依存にならないために今後取り組むこと」を各自で考えました。そして約1ヶ月後の1月上旬にその達成度を確認したところ、「できている」「だいたいできている」という回答が約79%で、私の予想を上回りました。その要因に保護者の協力やゲーム障害・ネット依存防止の鍵となる「自己管理能力」の高さが考えられます。

御前崎市では、令和3年度もスクラム・スクール運営協議会を中心に、市をあげて「子どもたちの生活習慣の安定」、特に「ゲーム障害・ネット依存の防止」に重点的に取り組みます。本校では、今井教授の講演会も予定しています。本年度同様、御理解・御協力をお願いします。



(校長 北原 弘明)